



女

いのち いだ
-すべての生命を抱きたい-

たちの縄文野焼き作品展

会期 2016年 6月1日(水)~8月28日(日)

縄文女子トーク

日時 6月28日(火)午後1時~

会場 猪風来美術館 展示室・創作館

作者による作品の解説と縄文への思いを語る会。女たちの縄文野焼きに興味のある方、男性もぜひご参加を!

出品者 (敬称略・五十音順)

縄文野焼き作品 青木淳子(岡山市) / 荒川悠(総社市) / 石丸裕子(香川県) / 枝光恵理(赤磐市)
大岡千尋(岡山市) / 大前裕美(香川県) / 小川ひかる(矢掛町) / 小野真由美(岡山市)
小林テレサ(倉敷市) / 庄野奏(岡山市) / 民家幸世(鳥取市) / 千葉麻由(総社市) / 中山裕那(岡山市)
藤井古野富(新見市) / 本城江利(総社市) / 森山佳枝(岡山市) / 山口和子(岡山市)
安福奈津子(岡山市) / 山下千代子(新見市) / 米本久美子(岡山市) / わせなつみ(総社市)
詩 今井文世(備前市) 絵画 小川千夏(矢掛町) 染織 むらかみよしこ(新見市)

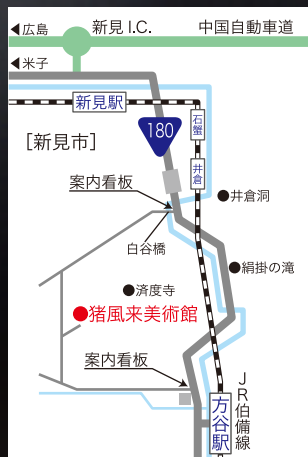
縄文野焼き技法の第一人者であり、現代縄文アートの創始者として知られる作家・猪風来(いふうらい)。猪風来美術館(新見市法曾陶芸館)では縄文野焼き作品をはじめ、法曾焼、絵画など、独自の縄文スパイラル造形による作品二百数十点を常設展示しております。

【開館時間】午前9:30~午後5:00
【休館日】月曜日(休日の場合その翌日)
【観覧料】一般400円 / 高校生200円
【アクセス】岡山から車で約90分
岡山空港から車で約70分
賀陽ICから車で約45分
新見ICから車で約30分
井倉駅からタクシーで約15分
方谷駅からタクシーで約10分



〒719-2552 岡山県新見市法曾609
TEL・FAX 0867-75-2444
<http://www.ifurai.jp/>

Photo by 金行真理子



女

猪風来美術館 企画展

すべての生命を抱きたい たちの縄文野焼き作品展

「縄文土器は女性たちが作っていたの」「その造形には母なる大地から生まれる、すべての生命を育てて抱き繋いでいく縄文のスピリットがあるの」「女たちの縄文野焼き」を実現したい!」——猪風来美術館陶芸教室で土器作りを体験し、1年以上続いた縄文時代の豊かな精神世界に学ぶうちに自然と女たちから声が上がりました。『縄文野焼きの心と技を学ぼう』と題した猪風来縄文塾を通して学んだ天と地、太陽と風と火の力をかりた縄文野焼きの実践。そして迎えた4月29日『春の縄文野焼き祭り』、わが身を火の前に投げ出しつつ炎の中で土器が命を宿して生まれてくる瞬間の感動を分かち合いました。野炉から生まれたばかりの熱気に満ちた土器・土偶の愛おしさ、全身で感受する大地や自然との一体感。歩き出したばかりの「女たちの縄文」のはじめの一步、しかし確かな足音が大地に響いています。24人の女たちの作品約130点を展示。どうぞご覧下さい。



“生きてる”それを野焼きで感じました。

これからの未来へつながっていくはじまりの大きなスタートです。

長い間探していた“たましいと肉体の融合する場”を野焼きの中に見ました。

無数のいのち、かたちあるものを生みつづける母体としての地球のうつわの大きさに圧倒される。

火の力をかりて大地の子宮から土器が生まれた瞬間、忘れていたものを思い出し抱きしめたい思いをしました。

丁寧に縄文が教えてくれるものを
味わい感性をみがきたいと思う。

12000年も続いた縄文の世界は、土器や土偶の姿を借りて、「もっとゆったり丁寧に森羅万象に耳を澄ませて生きてみたら?」と私を誘っているようです。

縄文女子トーク 日時 6月28日(火)午後1時～

第一部 (展示室)… 作者による作品解説

第二部 (創作館)… 縄文女子茶話会

縄文への思いやこれからの展望を語り合います。

参加無料・定員なし(美術館入館料が必要です)
差し入れ大歓迎です!

『出産土器』とよばれる山梨県出土の土器があります。片側から見ると出産時の苦しみの表情をした母と今まさに生まれ出ようとする胎児の顔、もう片側は安らいだ母親の顔と子の顔が表現されています。この土器は女の世界そのものです。縄文土器は単なる実用の器ではなく、命を生みだし慈しみ豊饒を祈る女たちの魂の入れ物でもあったと思います。縄文土器は食べ物を保存し温め暮らしを豊かにするだけではなく、ある時は亡くなった子の甕棺となり埋葬され、ふたたび生まれ変わる再生の祈りもこめられました。大地や自然と一体になり命を抱き豊饒をねがう縄文の女たちの心。現代に生きるわたしたちはそこから何を学べるのでしょうか。戦争や文明による環境破壊、宗教的な抗争・テロ、競争による格差社会など、男性原理の行き着く果ては絶望的です。いま「縄文」という女性原理——大自然と共にあり、あらゆる命を大切に抱き豊かに育ててゆくこと——を掲げるのは、それがこの世界の唯一の希望になりうると思うからです。——女たちよ! ふたたび女たちで、命の豊饒の祈りをこめて縄文土器をつくり、女たちで縄文野焼きをしよう! 太陽の神や火の神、風や大地の女神、精霊たちと交信し、縄文スピリットを女たちの手に取り戻そう!